

資料室



[HOME](#) | [資料室](#) | [労働者福祉・共済](#) | [教育カリキュラム](#) | [労働者自主福祉運動のすすめ（10）](#)

[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[協同組合](#)[労福協](#)[労働金庫](#)[全労済](#)[県生協連](#)[勤労者信用基金協会](#)[年金福祉協会](#)[福祉基金協会](#)[ユニオントラベル](#)[教育カリキュラム](#)

労働者自主福祉運動のすすめ（10）

「連合」誕生後の中央労福協の役割

（「中央労福協・あり方検討委員会」2000年）

1. 広く労働組合組織間の連携・調整機能を担う
2. 未組織労働者、高齢者、市民を対象とする福祉対応としての労福協運動の展開
3. 運動領域の違いからくる政策課題について情報、意見交換をし、連携と協力について機能を整備する

🔍 [キーワード検索はこちら](#)

1989年、それまで分立していた労働団体は連合に統一されました。

これにより労働団体間の調整機能は必要性が薄れ、また連合も「総合福祉ビジョン」を打ち出し、労働運動の一環としての自主福祉事業の重視・強化を掲げました。

そのため連合と中央労福協との役割の違い、労働者福祉運動の在り方、そして中央労福協の存在意義が問われました。

このような議論を受け、2000年に設置された「中央労福協・あり方検討委員会」は、「自前・完結型の運動から、加盟団体やNPO等も含めたネットワーク型で運動・事業を組み立てていく」発想への転換と、運動課題の絞り込みを答申しました。

具体的には、中央労福協の役割として、

1. 広く労働組合組織間の連携・調整機能を担う
2. 未組織労働者、高齢者、市民を対象とする福祉対応としての労福協運動の展開
3. 運動領域の違いからくる政策課題について情報、意見交換をし、連携と協力について機能を整備するというものでした。

この考えに基づき、中央労福協は労働組合や事業団体、様々な市民団体と協力しつつ、労働者福祉のコーディネーターとしての役割の発揮をめざしていくこととしました。

中央労福協の新たな役割を踏まえ、貸金業法改正運動（2005年）、「割賦販売法改正」（2007年）、貧困のない社会をめざした「反貧困運動」（2008年）などの運動を労働組合、事業団体、弁護士など市民団体と幅広いネットワークを通して取り組んできました。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.